

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況と今後の改善策	評価	学校関係者 評価者 による意見
1 (教師力を磨き、組織的な学校力を高める)	① 気づきを大切に、的確な「報告・連絡・相談」をする。	運営委員会(教頭)	【努力指標】 管理職、校務分掌、学年での「報告・連絡・相談」を密にし、協力して課題解決に対応する。	【教職員アンケート】 ・気づきを大切に、的確な「報告・連絡・相談」をしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【教91.3%】 ・学校経営ビジョンを共有し、運営委員会や分掌間の連携を密にした協働体制がとれている。今後も小さな気づきを共有できるよう、日頃から互いにコミュニケーションをとり、課題の共有と方針の確認、組織的な対応を図っていく。8.4%が課題を感じていることから、その要因を把握し、改善に努めていく。	A	・月80時間の時間外勤務が一度でも超えさせないことが働き方改革ではない。一度超えても、翌月は改善させるなど、継続して時間外勤務の大幅な超過が起きないように改善していくことが大切。よって、アンケートの基準も検討すべき。
	② 働き方の見直しを進める。	運営委員会(教頭)	【努力指標】 月2回以上の定時退校を設定したり、業務の平準化を行ったりすることで、時間外勤務時間を短縮する。	【時間外勤務時間調査】 ・時間外勤務時間が月80時間を超えないように勤務している。 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 70%以上	【4~6月 81.2%】 時間外勤務時間が月平均80時間を超える教員には校長が面談をし、改善策を検討している。今年度は定時退校日を明確に示せていなかったため、2学期以降は月歴に明記し、業務に見直しをもって取り組めるよう働きかけていく。また、会議の精選や業務の削減、簡素化についても継続していく。	C	・時間の使い方を改善する目的や必要性を説いていくことで、時間に対する感覚や改善することの重要性も伝わる。 ・自己指導能力という言葉が抽象的なので、まず、教職員間で言葉の意味やイメージを共有した上で、生徒とその具体的な姿を共通理解を図る必要がある。
	③ 生徒の「自己指導能力」を育む。	生徒指導(泉)	【努力指標】 生徒指導の4つの視点を意識した実践を重ね、「自己指導能力」の育成を目指す。	【教職員アンケート】 ・生徒指導の4つの視点を意識し、「自己指導能力」を育むことができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【教69.5%】 自己指導能力を育むためには、教員・生徒が自己指導能力とはどのようなものか、どのような自己指導能力をつける必要があるのかを共有する必要がある。夏季休業中の校内研修会において、各学年で身につけさせたい自己指導能力検討する時間を設ける。そのことを2学期のスタート時に生徒と共有し、向上につなげる。	D	
2 (自ら進んで学ぶ生徒)	① 目標を達成した姿を明確にする。	研究(齊田)	【満足度指標】 既習事項を想起させたり、学習課題を明示したりすることを通じて、生徒が目標を達成した姿を具体的にイメージできるようにする。	【生徒アンケート】 ・課題をつかみ、学習の見通しをもっていたか。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・生徒が目標を達成した姿をイメージできるような手立てを行ったか。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【生91.7%】【教91.5%】 授業の導入部分でねらいとしている「ゴールの姿をより鮮明にイメージすることについては、生徒、教員ともに満足感をもって授業に取り組むことができていくことがわかる。肯定的な回答の中に占める最も肯定的な回答の割合を比べると、生徒(48%)よりも教師(52%)の方がやや高いことから、授業者としても自信をもって取り組むことができていくと考えられる。今後も、授業の導入部分の工夫を継続していくことで、目標達成を意識した授業づくりを行ってきたい。	A	・中学生という発達段階を十分に考慮し、授業では、間違ってもいい、発表しやすい雰囲気づくりに積極的に努めていく必要がある。 ・アウトプットする力を付けていくためには、まずはどんな形であれ、日々継続してアウトプットする場面を授業の中で取り入れていくことが必要である。その積み重ねが力に変わっていくはずである。 ・まずは、自分の意見をPCで入力したり、プリントに記入したりするところから、二人ペアで意見を交わす、そしてその人数を少しずつ増やしていくなどの手順で、各学年、各クラス、の状況に合わせて取り組み、どんどんトレーニングを重ね、力を付けていってほしい。
	② 課題解決に向けた指導方法・教材等を工夫する。	研究(齊田)	【満足度指標】 他者との対話、ICTの活用、学び合いなど、課題に対する多様な解決方法を提示することを通じて、個別最適な学びを実現する。	【生徒アンケート】 ・いろいろな方法や視点から、課題を解決できたか。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・課題解決に向けた指導方法・教材等を工夫することで、個別最適な学びの実現に、向けて足がかりができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【生90.8%】【教83.4%】 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させた授業づくりを行う上で、教科固有の見方・考え方を効果的に働かせることがポイントであることを、校内研修会で共有した。ICTの効果的な活用による、学習の個別化にフォーカスされがちであるが、上記のような不易な部分を大切にしていることが、「わかる」できる授業の土台となると考えられる。計画訪問の指導案作成を通じて、各教科で授業スタイルチェックシートを具現化するような授業づくりを、継続していく。	B	・大学入試でも、最近では考え方や方法、理由を説明する等の問題が頻出の傾向にある。中学生の時期からそういった問いを解決していく経験は、今後にも生きていく。
	③ 視点を明確にしてアウトプットさせる。	研究(齊田)	【満足度指標】 授業終了のアウトプット場面で、視点を明確にすることを通じて、学習課題と整合した適切な形で学びをまとめたり、振り返りを行うことができるようにする。	【生徒アンケート】 ・課題に合う形で、授業の学びをまとめることができたか。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・生徒が課題に合った適切な表現でまとめ、振り返りができるよう、視点を明確にする手立てを行ったか。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【生87.4%】【教79.2%】 授業改善関係の3つの質問項目の中で、最もポイントが低かった。肯定的な回答の中に占める最も肯定的な回答の割合を見てみると、生徒が40%、教師が37%と、低調な結果となった。学力調査等においても、条件に合った形で、視点を明確にして自分の考えを表現するような活用方法を問う設問は頻出であり、求められる資質・能力の一部でもある。授業はもちろんのこと、定期テストに学力調査問題を活用していく取り組みの中で、このような形式でのアウトプットの経験を積み重ねることで、自信と正答率を向上させていきたい。	C	
3 (明るく素直に振る舞う生徒)	① 生徒指導・教育相談を充実させる。	生徒指導(泉)	【努力指標】【成果指標】 生徒指導や教育相談を充実させることで、年間の事案件数を減らす。	【生徒指導データ】 ・生徒指導事案(暴力・いじめ等)の発見と解決。 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 70%以上 【教育相談データ】 ・新たな不登校及び不登校傾向の生徒をつくらない。	【暴力認知件数2件】 【いじめ認知件数1件、うち解消0件 解消確認まで3カ月を要する】 週1回の管理職と生徒指導担当者間での情報交換と教育相談会を通じて、各学年及び個々の生徒の状況について、情報を共有し、今後の対応策や、トラブルを未然に防止するための方策などについて、話し合っている。また、chromebookを使っての月1回のいじめアンケート、QU調査後のヘルプシグナルのチェック、個人面談も引き続き継続し、トラブルの未然防止につなげていきたい。	B	・「いじめを起さない」という予防的な取り組みも当然必要ではあるが、「いじめはどんな集団でも起こりうるものだ」という見地に立ち、一人一人の生徒に対して「負けない心」を育むことも必要である。「世の中には、必ず人をいじめる人間がいる」ということを割り切ることができたり、友だちとの付き合い方などをもっと視野を広げて考えられるようになっていくことも大切だと考える。
	② 特別の教科道徳において、道徳的価値について考えを深める。	教務・研究(森田)	【努力指標】 生徒が、道徳的価値について、多面的・多角的に考えることができるようにする。	【教職員アンケート】 ・ねらいとする価値にせまるために、多面的・多角的な見方ができるような授業展開の工夫に努めている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【生徒アンケート】 ・道徳の授業では、友達との話し合いなどを通じて、テーマについて自分の考えを深めることができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【教80.0%】【生93.4%】 年度当初に行ったオリエンテーションで、仲間のために意見を言い、仲間の意見から学ぶことを共通理解し実践を行った結果、生徒アンケートでは、話し合いを通じて考えを深めることができたと考えられる生徒が多かった。一方で、教職員アンケートでは、授業づくりについて課題を感じている教員がいることが分かる。8月の教職員研修会を通じて、「ねらい」の設定の仕方と、それに至る発問の工夫を学ぶことができた。今後、リレー授業や11月の研修会を通して、ねらいに迫るための授業づくりについて教員の理解と実践を促したい。	B	・「いじめ」は、人の心を深く傷つけてしまうとても恐ろしい行為である。教職員は、気付いた時には即対応し、小さなうちにしっかり芽を摘むことが大切であり、時間を置くことで重大な事態に発展することがあるということを念頭に置いて子供と関わっていく必要がある。そういった共通認識のもと、常にアンテナを高く、報・連・相を大切に職務に当たるべきである。
	③ 郷土を愛する心を育成する。	教務・研究(本川)	【満足度指標】 地域と連携したキャリア教育やふるさと教育を計画的・効果的に実践する。	【教職員アンケート】 ・総合的な学習の時間等を活用し、生徒のキャリア発達を促したり、郷土を愛する心を育成したりする。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【生徒アンケート】 ・「根上が好きか？能美市が好きか？」の結果 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【教82.6%】【生:根86.4%】 「能美市は好きか」のアンケートは昨年度に比べて、どの学年においても上回っていた。しかし、「根上が好きか」については、昨年度と比べて全体では変化はあまりないが、1年生の数値が低くなっていた。総合的な学習の時間を中心に、地域と連携しながら、能美市の環境や企業について調べたり、実際に体験したりすることを通じて、能美市の魅力を見つけ、郷土を愛する心を育成する機会としたい。	B	
4 (強い身体をもつ生徒)	① 基礎体力を向上させる。	保健体育(泉)	【努力指標】 教科体育の充実や適正な部活動運営を通して、基礎体力の向上を図る。	【体力テスト】 ・2、3年生の体力テストにおいて、総合評価のA、Bが占める割合 A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	【体力テスト 47.1%】 県平均との比較では、48項目中23項目は県平均を上回っていた。残りの25項目の向上が求められるが、特に握力においては全学年男女県平均を下回る結果となっている。筋力をいかに高めてくのが課題となっており、保健体育の授業の中で、向上に向けたトレーニングを実施していく。	C	・いかに生徒や保護者に「受診の必要性」を感じてもらうかが重要だと考える。受診率が低くなっている理由の一つとして、生徒や保護者がその現状を「重く受け止めていない」ということがあるのならば、その先にある重大な事態をしっかりとして強調して生徒にも保護者にも伝えていく必要がある。
	② 健康教育を充実させる。	保健環境(四間丁)	【満足度指標】 「早起き」「朝ごはん」を基盤として、歯科検診や視力検査の結果を含め、生徒が年間を通して自分の健康について考えられるようにする。	【生徒アンケート】 ・「早起きができている」「朝ごはんを食べている」ができていた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【保健調査】 ・歯科検診、視力検査の受診状況 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【生:早80.8%、朝95.1%】 昨年度と比較し両方とも改善が見られ、特に早起きにおいて10%以上アップしている。今後も「早寝早起き朝ごはん」の大切さを継続し伝え、生徒のさらなる意識向上を目指していく。 【保健調査:歯科検診 9.2% 視力検査 18.6%】 今年度は夏休みの個人懇談で受診の勧告ができなかったため、数値が低くなった。2学期以降も担任から保健部員による呼びかけを継続させる。特に歯科検診の結果については個別に声掛けし、受診の必要性を確認していく。	D	
5 (コミュニティ・地域との連携)	① 学校運営協議会を充実させる。	教務(辻)	【満足度指標】 学校運営協議会を中心に、コミュニティスクール(CS)としての機能を推進し、家庭・地域との連携を強化する。	【保護者アンケート】 ・コミュニティスクール(CS)をもとに、学校・保護者・地域がつながり合い、生徒の成長を支えることができていると思う。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・学校運営協議会での話し合いを中心に、保護者や地域からいただいた意見を、日々の教育活動に生かしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【保44.2%】【教86.9%】 昨年度より、アンケートの文言をより具体的なものに変更した。保護者アンケートは昨年度よりも数値が向上し、教職員アンケートは昨年度とほぼ同等の数値であることから、ホームページの充実や教職員間での学校運営協議会に関する情報共有が効果的にはたかっていると考えられる。昨年度に引き続き、学校運営協議会「サポーター名簿」を作成する作業を通じて、学校としてのニーズをさらに明確にする。働き方改革の推進や生徒と向き合う時間の確保のために、学校運営協議会を通じて、より具体的なサポートを地域に依頼することができるよう、体制の整備を継続して行っていく。	C	・さらにCSの活動を充実させていくために、活動の場を広げていく必要がある。差し当たって2学期は、学期末の大掃除の場面で、普段できない場所の掃除の支援・見守りを考えている。また、卒業式や入学式などの儀式的な学校行事の受付等も、教職員の人員不足解消のためにお手伝いできればと考える。 ・CSだけでなく、PTAや地域の方々とも協力して取り組むことで、CSの活動に対する認知度が増すのではないかと考える。 ・HPの保護者の閲覧は、現段階ではまだまだ低い状態ではあるが、何より「続けること」が大切である。根気強く情報発信を継続すべきである。
	② 適切な情報公開と社会貢献を展開する。	教務(辻)	【成果指標】 ホームページ等での情報発信につとめ、学校教育活動に対する家庭・地域からの理解を深められるようにする。 【努力指標】 学校教育活動全体を通して、「働く子」を育成する。	【保護者アンケート】 ・生徒の学校での活動の様子を知るために、学校ホームページを定期的に閲覧している。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【生徒アンケート】 ・「そうじをしている」「あいさつができる」の結果。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【保32.2%】【生:根94.6%、操89.3%】 「働く子」という視点では、昨年度と比較すると、安定して高い満足度を得られていることがわかる。生徒会執行部や各部会を中心として、さらに質的に向上させていくことができるよう、取り組みを継続していく。 情報発信については、昨年度からアンケートの文言を精査したことで、より実態を正確に把握することができるようになってきている。HP内の「校長コラム」を通して、学校内での出来事を時間を空けずに発信している。この取り組みをさらに充実させていき、学校・保護者・地域のつながりを深める一助としていきたい。	C	